

授業科目名 科目コード	ボランティア体験（Volunteer Experience） 2013013-046					担当教員	米 山 宗 久 （ヨネヤマ ムネヒサ）		
科目区分	教養科目	必修・ 選択区分	選択	単位 数	2	配当年次	1年次	開講期	集中
科目特性	地域志向科目／知識定着・確認型AL／課題解決型AL／外部講師招聘科目								

① 授業のねらい・概要
ボランティアの現状を幅広く、さらに総合的に学修することにより、今後のボランティア活動の足掛かりとする。具体的には次の目標とする。1) 地域におけるボランティア活動に主体的に参加する。2) ボランティア活動によって社会のしくみを知る。3) ボランティア活動によって多くの人々と交流する。4) ボランティア活動によって人の存在価値を知る。5) ボランティア活動による自己実現を目指す。学に在学する4年間において、学外におけるボランティア活動に参加することで、学内の講義等では学び・体験することができない多様な経験を修得するとともに、地域社会と本学学生との暖かみのある交流を通して社会に貢献し、豊かな情感を備えた人間育成を図ること、さらにボランティアリーダーとしての資質習得を目的とする。
② ディプロマ・ポリシーとの関連
地域社会に貢献する姿勢／職業人として通用する能力／専門的知識・技能を活用する能力／コミュニケーション能力を養う。
③ 授業の進め方・指示事項
ボランティア活動の実践のために活動準備を行う。ボランティア先の選定、活動計画書の作成、ボランティア活動報告書の作成、活動報告会を行う。ボランティア体験期間は、7月～10月の4か月間の内で40時間以上行う。
④ 関連科目・履修しておくべき科目
ボランティア論を履修することが望ましい
⑤ 評価Aに対応する具体的な学習到達目標の目安
(i) ボランティアの継続性を理解する。 (ii) ボランティアを体験することで新たな発見を理解する。 (iii) ボランティア活性化の必要性を理解する。
⑥ テキスト（教科書）
⑦ 参考図書・指定図書
岡本栄一（2005）「ボランティアのすすめ 基礎から実践まで」 ミネルヴァ書房 早瀬昇（2018）「参加の力が創る共生社会 市民の共感・主体性をどう醸成するか」 ミネルヴァ書房

⑧ ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	S	A	B	C	D
	到達目標を越えたレベルを達成している	到達目標を達成している	到達目標達成にはやや努力を要する	到達目標達成には努力を要する	到達目標達成には相当の努力を要する
(i) ボランティアの継続性を理解する。	主体的に参加する意義を踏まえて、継続性の必要性やニーズの要望を説明できる	主体的に参加する意義を踏まえて、継続性の必要性や要望を説明できる	主体的に参加する意義を踏まえて、継続性の資料等を見ながら説明できる	主体的に参加する意義を踏まえて、やニーズの要望の資料等を見ながら説明できる	主体的に参加する意義を踏まえて、継続性の必要性を説明できない
(ii) ボランティアを体験することで新たな発見を理解する。	ボランティア体験を踏まえて、人と交流から新たな視点を説明できる	ボランティア体験を踏まえて、人間関係の必要性を説明できる	ボランティア体験を踏まえて、人との交流を説明できる	ボランティア体験を踏まえて、概ね人との交流が説明できる	ボランティア体験を踏まえても新たな発見ができない
(iii) ボランティア活性化の必要性を理解する。	ボランティア体験を踏まえて、人との交流が地域を活性化することができることを説明できる	ボランティア体験を踏まえて、活性化のためには人間関係が重要であることを説明できる	ボランティア体験を踏まえて、ボランティア活動が活性化に繋がっていることを説明できる	ボランティア体験を踏まえて、概ね活性化に繋がっていることを説明できる	ボランティア体験を踏まえても、活性化に繋がっていることを説明できない

⑨ 学習の到達目標（評価項目）とその評価の方法、フィードバックの方法								
学習到達目標（評価項目）	試験	小テスト	課題	レポート	発表・実技	授業への参加・意欲	その他	合計
総合評価割合			60%	20%	10%	10%		100%
(i) ボランティアの継続性を理解する。			20%	20%				40%
(ii) ボランティアを体験することで新たな発見を理解する。			20%			5%		25%
(iii) ボランティア活性化の必要性を理解する。			20%		10%	5%		35%
フィードバックの方法	ボランティア体験報告会を実施して情報共有を行う。							

⑩ 担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等）
受け入れ先へ迷惑をかけたため、ボランティア活動を途中で放棄をすることがないようにする。 また、自分自身でボランティア先を選考する。さらに4月から行う授業にも参加する。 できるだけ1年次での履修を進める。

⑪ 授業計画と学習課題			
回数	授業の内容	授業外の学習課題と時間（分） （※特別な持参物）	
1	オリエンテーション	ボランティア種別を考察	30分
2	ボランティア活動の実践	ボランティア先の検討	60分
3	活動準備	ボランティア先の検討	60分
4	地域分野のボランティア	ボランティア種別の活動内容を考察	60分
5	高齢者分野のボランティア	ボランティア種別の活動内容を考察	60分
6	児童分野のボランティア	ボランティア種別の活動内容を考察	60分
7	障害者分野のボランティア	ボランティア種別の活動内容を考察	60分
8	ボランティア活動計画書の提出	ボランティア先との協議	60分
9	ボランティア活動（活動時間は40時間とする。 活動日誌を作成する。）	ボランティア実践	60分
10	事後学修（活動報告書の提出）	報告書のとりまとめ	60分
11	活動報告会準備	報告発表の準備	60分
12	活動報告会	報告発表	60分
13			分
14			分
15			分

⑫ アクティブラーニングについて	
知識定着・確認型 AL では、活動日誌・報告書作成と報告発表、フィードバックを行う。課題解決型 AL では、フィールドワークとして学外のボランティア活動を行う。	

※以下は該当者のみ記載する。

⑬ 実務経験のある教員による授業科目
実務経験の概要
<p>行政機関・社会福祉協議会・民間福祉施設では、生活保護・障害者福祉・高齢者福祉・ひとり親家庭福祉・児童福祉・介護保険制度や児童館に関わる行政業務、ボランティア支援・市民協働活動・福祉教育に関わる地域福祉・ソーシャルワーク業務、利用者の処遇・生活支援・相談業務に関わる利用者支援業務に従事してきた。また、行政計画である「地域福祉計画」「地域福祉活動計画」「介護保険計画」「障害者計画」の計画策定を行った。さらに「長岡市高齢者保健福祉推進会」「長岡市地域包括支援センター運営部会」「長岡市福祉有償運送運営協議会」「長岡市福祉施設指定管理者選定委員会」「長岡市男女共同参画審議会」「長岡市障害者施策推進協議会」「長岡市民生委員推薦会」などの委員を歴任している。</p>
実務経験と授業科目との関連性
<p>社会福祉協議会における経験から、ボランティア活動における基本的姿勢や心構え、活動の意義や目的、活動内容や影響力、さらに活動における継続課題を学生に伝えることができる。</p> <p>たとえば、ボランティアを継続するためにコーディネーターの企画力や意思付け、ボランティア先との信頼関係の必要性を伝えることができる。さらに実体験として子育て支援活動を地域住民の理解してもらうための必要性も伝えることができる。</p> <p>また、地域福祉計画や地域福祉活動計画においても、ボランティア活動の現状と課題・問題点が明記されている。それらの知識を学生に伝えていくことによって、学生は現状と課題をまとめたり、課題解決策を導き出す能力を養うことができる。</p>